

主任教授からのメッセージ

乳腺外科学講座は2024年4月に新設された講座です。そのため、医局員は若手为中心であり活気があります。扱う疾患のほとんどは乳がんですが、乳がん診療における、診断、外科的治療、内科的治療の全てを担っており、外科医と言うよりはむしろ腫瘍医の位置付けになります。診療の場としては外来診療が中心であり、夜間・休日の緊急呼び出しはそれほど多くはなく、仕事と私生活における計画を比較的立てやすい環境にあります。女性医師が多数在籍しているのも当講座の特徴です。女性医師がキャリアを継続できるよう、今後も環境整備に力を入れていきたいと思っております。

○ 診療科の特徴

乳腺外科は、主に乳がんの診療を行っています。画像診断や針生検での確定診断、手術、術後の補助療法と術後フォロー、乳がん再発治療、乳がん終末期といったように乳がんを一貫して診療します。術後補助療法や再発症例で使用できる薬剤は年々増えて複雑化しており、専門性が高まっています。

手術に関しては、形成外科と連携して乳房再建も積極的に行っています。2024年からはラジオ波も保険適応となり、当院でも施行可能です。

○ 診療科で働く女性医師

乳腺外科という特性上、他の外科より女性医師が多く在籍しており、医局員16人のうち10人と6割が女性医師を占めています。患者さんのほとんどが女性であり、女性医師ならではの共感や細やかな診療が喜ばれることも多いと思っております。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

どのような勤務形態で復帰するかは、家庭環境がそれぞれ異なるため本人の希望を聞いて相談していきます。当院は院内に保育園がありますので、出産後1年以内に復帰しているケースが多いです。

乳腺外科		指導下	独立
シミュレーション	超音波、針生検、縫合	休み期間中や復帰後適宜指導します	自身のみでの練習も可能です
手術	局麻手術・処置	1か月（休み前の経験度で異なります）	1か月以降（最短）
	腫瘍摘出術	1か月（休み前の経験度で異なります）	1か月以降（最短）
	乳癌摘出術	1か月（休み前の経験度で異なります）	2～3か月以降（最短）
外来	針生検	1か月（休み前の経験度で異なります）	1か月以降（最短）
	一般外来	1か月（休み前の経験度で異なります）	1か月以降（最短）
	再発患者の外来	1か月（休み前の経験度で異なります）	1か月以降（最短）
病棟	入院患者受け持ち	1か月（休み前の経験度で異なります）	1か月以降（最短）
	救急対応（日勤）	1か月（休み前の経験度で異なります）	1か月以降（最短）

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

女性医師の割合は増加していますが、出産後に大学病院へ職場復帰している女性医師は少ないのが現状です。大学病院に復帰したくても復帰できないと諦めている女性医師も少なくないでしょう。大学病院でないと積めないキャリアもあるかと思いますが、当院への復帰を希望している女性医師がいるならば医局員でサポートしあう環境にしていかなければならないと考えています。子供の人数や年齢・家庭環境によって、働き方もさまざまかと思しますのでまずは相談いただければと思います。

- 講座ホームページ 関西医科大学 乳腺外科学講座

<https://www.kmu.ac.jp/faculty/medical/category3/unit85.html>